

2017年(平成29)4月5日(水) 第36回 例会 (通算2742回)



人類に
奉仕する
ロータリー

RI 会長: ジョン・F・ジャーム

Weekly Report No.2621

Rotary International District 2580

石垣ロータリークラブ



石垣ロータリークラブ

地区ガバナー: 上山 昭治氏

「出会いを大切に」

ロータリーレート \$1=¥116

石垣ロータリークラブ55年のあゆみ

1991~1992年度



三十一代会長 三木 巖

副会長	勢理客吉雄	幹事	高嶺 一夫
副幹事	漢那 憲仁	会計	黒島直建・宮城辰雄
会場監督	比嘉 良侑	クラブ奉仕	勢理客 吉雄
社会奉仕	宮良 徹	職業奉仕	比嘉 啓泰
国際奉仕	宮良 安重		

- 台東 RC 創立 9 周年記念式典出席
- 「日本経済の今後の展開と沖縄」と題して原田靖博日本銀行那覇支店長をお招きして一般市民を対象に講演会を実施
- 台東 RC 友好親善訪問団来島
- 石垣島ファミリートライアスロン大会エイドステーションを担当
- 名蔵湾クリーン運動を実施

《社会情勢》 1992 年

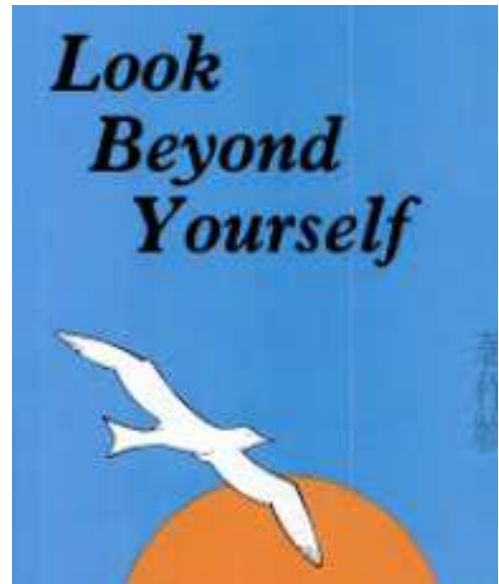
- ・雲仙普賢岳の火砕流によって 170 棟が焼失
- ・ソビエト連邦が消滅



1991~92 年度 RI 会長
ラジェンドラ K. サブー
(インド・チャンディガー RC)

【RIテーマ】

越えた目を
自分を



会 長	: 前木 繁孝	副 会 長	: 大浜 一郎	幹 事	: 前原 博一
副 幹 事	: 宮城 早人	SAA・出席	: 遠藤 正夫	情報・会報	: 宮良 薫

例会日 水曜日 12:30~13:30
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
 E-mail ishirota@ninus.ocn.ne.jp

— . . . — **第2739回 2017年3月15日(水) 例会報告** — . . . —

- 司会進行： 我那覇 宗広
- ロータリーソング： えんどうの花・四つのテスト
- ソングリーダー： 小林 昌道
- ゲスト： 米盛博明氏(八重山建設産業団体連合会会長)
- ピジター： 白木 久雄氏(高知・中村 RC)
- メイクアップ： 大浜一郎・宮良 薫・小底 厚子
- 出席報告


会員総数 39名 出席義務会員 38名
 出席数 24名 欠席数 14名
 出席率 64.16%(3月通算出席率 70.18%)

 **本日のこここ**

	小計	累計
BOX	¥6,000	¥226,000
コイン	¥0	¥114,672
合計		¥340,672

- ゲストの建産連会長米盛博明様、本日はありがとうございました。また来週の夜間例会には多くの皆様が参加して、楽しいひと時をお過ごし下さいますようお願いいたします。(前木 繁孝)
- 米盛博明様、有難う御座いました。(大濱 達也)
- 平成 28 年度の確定申告が無事終わりました。やっとねむれます。(前原 博一)
- 同級生の米盛様を迎えて、ありがとうございます。(仁開 一夫)
- 米盛博明様、卓話有難うございました。(大浜 勇人)
- 京都本山妙心寺団体参拝に行っておきました。とても寒く日本酒が大変うまかった。(前木 繁孝)

会長挨拶：前木 繁孝



本日は米盛博明さまをお迎えしております。現在建設業協会八重山支部の支部長、建設業労働災害防止協会沖縄県支部の八重山分会長、沖縄県労働基準協会八重山支部副支部長を務めております。それから沖縄県建設産業団体連合会というのがありますが、それとは離れて八重山独自の八重生建設産業団体連合会の会長を現在務めております。建産連というのは八重山の建設関連の業種 10 団体を網羅した会ですが、測量設計協会、建築設計協会、電気事業協同組合、管工事業協同組合、木材商協同組合、諸々が集まりまして、10 団体を包括する頂点にいて指揮をふるっている方でもあります。

私は彼とは八重山高校時代の同級生でありまして、彼が放浪の旅から帰って来てからずっと一緒に過ごしています。月 1 で同級生の集まりをした

り、その他 3 つほど会が一緒なので、ほぼ毎週顔を合わせています。


今日はその米盛さんに楽しい、あるいは苦しい、そして魅力や問題点、建産連に対する想い、問題を出して頂いてどういう解決、行動をしているかまで触れて頂ければと思います

ゲスト卓話：米盛 博明氏

八重山建設産業団体連合会 会長



テーマ「八重山建設産業団体連合会について」



八重山建設産業団体連合会は昭和 56 年に設立され、今年で 36 年目になります。現在会員団体は 10 団体、延べ会員数が 169 社となっております。今から 20 年前、平成 8 年には 18 団体が加盟しており、会員延べ数 388 社で、現在の倍の会社が組織していた時代もあります。

組織の目的としては八重山郡内で建設業、あるいは建設業に関連する産業が集まり、業界の結びつきを強くして、建設産業を取り巻く諸課題に力を合わせて取組んで行く、ひいては八重山圏域の発展に力を尽くそうという目的で設立されております。

事業としては関係する官庁に対する情報、意見交換を行う。それから様々な要請活動を団体として、あるいは他の経済団体も一緒になって、行政官庁に行うような事もしています。また地域におけるインフラの整備、都市計画に関する提言なども行っています。行事としては、毎年新年 1 月に建産連主催の新春懇親会を催しております。

これまでの主な事業としては、新石垣島空港、長いこと位置決定ができずにいた時期がありましたが、その時期には調査の協力、後方支援をやっておりました。国・県・市に対して新石垣島空港、早く開港させてくれと、いう事で何度かに渡って要請活動を行いました。それから年度初めには公共工事の説明会の開催、毎年恒例の石垣島まつり、産業まつりへの協力もやっております。

今、石垣島は大きなクルーズ船がどんどん入っています。これから我々が組織として活動したい事の 1 つに、岸壁工事があります。現在、サザンゲートを越えた南ぬ島町で、大きな船が入る 9m の岸壁工事がされています。いずれは 13m の

岸壁が整備される予定です。それが整備されると今、沖待ちをしている 10 万トン以上クラスの船が接岸可能になります。予定されている岩壁の整備には 2 通りありまして、鋼管杭を打ち込んで岸壁を整備するやり方と、ケーソンを設置して岸壁を整備するという方法がありますが、鋼管杭を打ち込む技術は沖縄県内で施工できる業者はありませんので、内地からマリコンという大企業が来て岸壁を整備する事になります。ですから地元にはほとんど恩恵がありません。一方でケーソンは地元の業者、あるいは地元の資材を使います。それで我々は今後 -13m 岸壁が整備されるにあたっては、地元で恩恵が落ちるような工法、ケーソン型にしてくれと、建産連として行政官庁に要請していこうかと思っています。このように我々の組織は 1 社 1 社、あるいは単独の業界としては出来ないけれど、それがまとまって要請すればかなり強力な要請になるという事で、今後取り組んで行こうかと思っています。

次に最近の八重山の経済状況ですが、2013 年に新石垣空港が開港しまして、観光産業をはじめとして八重山経済も飛躍的に発展しております。観光客数は昨年 120 万人を突破し、観光消費額も対前年比で 22.6% という伸びを示して、788 億 6 千万と過去最高の金額に達しております。岸壁の整備も着々と進み、空、海というインフラ整備が着実に進んで、更なる観光客の増加が予想されます。また、安倍総理大臣も八重山圏域には非常に関心を示していて、昨年の施政方針演説の中で石垣島を取り上げて、大型クルーズ船の着岸可能な岸壁の整備を施政方針の中で約束してくれました。そして今年も施政方針演説の中で、昨年に引き続き石垣市に触れて、外国人観光客が石垣にかなり増えていると、それで新石垣空港の国際線の整備についても約束してくれております。さらには石垣市の 2017 年度予算もこれまでになかった 280 億円という巨額の予算を立てて、行政執行していこうという運びになっています。このように八重山経済は 2017 年も非常に好調に推移して、さらに拡大していく事が予想されます。

こういった八重山の経済状況の発展を見て、我々建設業も今、活気がある状態です。例えば民間工事では石垣は少しずつ人口も増えて、観光客もかなり入って来ていますので、それに対応するためのアパート建設、ビジネスホテル、リゾート型ホテルの建設など、活発に建設工事が行われております。また公共工事におきましては、継続事業として県営新川団地の建て替え工事が今年も引き続き行われます。昨年は 1 期工事、新年度には 2 期工事が発注される予定で、これから 10 年先まで続く大型の建て替え工事になります。その一角には石垣市営の新川団地もありますので、その

建て替えも来るという事で、新川団地一帯は非常に活気が出てくると思います。さらに土木では国営土地改良事業が 2 年前から始まって、10 年以上続く工事で、予算総額が約 760 億円と言われる巨額の投資をしていきます。どういう工事かという、農地の灌漑用の水を送るパイプラインを 15 年～25 年前に敷設されたパイプですから、腐食して漏水しているという事で、パイプの取り換え、それから敷設されていなかった所に新設する工事です。現在大里、星野辺りを掘り返していますが、あの工事が国営土地改良工事になります。それから新空港のアクセス道路、若干進捗状況は予定より遅れておりますが、今年も引き続き行われます。このアクセス道路に関しては、ルート上に旧大浜町の浄水場が位置するという事で、文化財審議会などが文化財に指定しようという動きも出ております。県八重山土木事務所に、アクセス道路の進捗状況と旧浄水場が文化財に指定された時に、アクセス道路の完成がどのように影響を受けるのか、予算面と日程的にどれだけの遅れが出るかの説明を受けました。そういう事を踏まえて、我々建産連としては県、行政に対して行動も起こさなければいけないのかなという事を現在考えております。

新規事業に関しては石垣市の新庁舎が実施設計に移っておりますので、来年度あるいは再来年度には着手になるのかなと期待をしております。それから離島工事にあたっては与那国島で自衛隊駐屯地の工事が引き続き行われ、そして隊員宿舎も行われる予定があります。

このように圏域経済は活発であります。我々業界において深刻な問題として人手不足があります。昨年、与那国島に行ってきました。建設業協会八重山支部の会員に与那国の業者が 3 社加盟をしておりますので、意見交換という事で伺った時に、非常にショッキングな事を聞きました。与那国島には建設に関係する業者が、つい以前までは 11 業者ありましたが、現在は 4 業者しか残っていません。与那国島は自衛隊工事、祖納港の整備工事など、非常に活気があります。工事はありますが、業者数は 4 社と減っています。これの大きな問題は人手不足です。工事が来ても人手がないから仕事が出来ないという事です。もう 1 つは後継者の問題です。実際 4 社とも後継者がいるから継続しているんです。後継者がいない所は会社をたたむしかないと、これは建設業界の何かを暗示しているような気がして非常にショックを受けました。八重山もほとんどの現場でも技術者、作業員が不足しているという現実があります。先日も八重山病院の現場を訪ねましたが、あれだけ大きな建築工事が始まっていますが、やはり人手が島内では確保できないという事で、沖縄本島、場合には九州から呼んで、工事に当たらせているという

状況です。当初、沖縄県の積算には地元で作業員は調達できるという事で、工事予算を組みましたが、実際始まってみると、作業員が地元にいないという事で島外から来ます。そうすると経費が掛かります。それは誰が負担するのかとなると、実際石垣に作業員がいないという事を証明して、島外から来る際の航空運賃、宿泊費、その他の経費、領収書を全部そろえて後日県に提出すると、厳しいチェックはありますが、後日精算として経費を出してくれます。他の工事でもこのような事が行われております。地元人がいないという事で、莫大な工事金が加算されるというのが今の状態です。

このように建設業は他の産業に比べて、人手不足がはなはだしいんじゃないかなと思います。一説によると今後 10 年以内に 100 万人という数の大量離職時代が到来するという話もありますので、この危機的状況はますます続くのではないかと思います。しかし建設業は人々の生活に密接につながっていて、インフラ整備をするためには建設業を欠かすことができないので、日本全体の問題として捉えて行かなければいけないと思います。国の施策も現在国土交通省あるいは厚生労働省辺りで建設業界の人手不足の対策を強力に立てております。その 1 つに担い手三法というのがあります。発注者に対して工事を発注する時は、しっかりした見積もりをする事、現在の価格を調べる事、そしてダンピングをする所は排除しなさいとか、次の建設業界を担う若者を参入するように努力させなさい、というような法律を整備しております。三法とは品確法、建設業法、それから入札にあたっての入札契約法とかで、建設業界の体質を改善して若者が魅力ある業界だと、入って来れるような環境を作ろうという事で、国もいろんな施策を講じております。その中で社会保険未加入問題があります。元請は社会保険に加入していますが、下請けには職員たちが社会保険に加入しないまま現場に入る場合があります。社会保険に未加入の会社は下請けに使うなど、国が法的に規制しています。それから外国人実習生制度もあります。現在石垣でもベトナム、フィリピンなどから外国人実習生という名目に入れて、人手不足解消の 1 つにしておりますが、期間が 2 年から 3 年になった

り、場合によっては 5 年間国内に滞在できたり、実習を終えて一旦帰った人が再度入国できるようにしたり、事業所によって人数の制限がありました。それをゆるやかにしています。それから若者や女性の雇用に関して、若年者（35 歳以下）あるいは新卒者を採用すると、業者にポイントを与えるんです。例えば経営審査とか工事成績にポイントを与えて、若者の入職を業界がするように仕向けて行くということです。また現場に男性用トイレと女性用トイレを別に設けるとか、休憩室を別にするとか女性が働きやすい現場を作ると、それに対してもポイントを与えるという事を国の施策として行っています。

我々としては、建設業界は長い間 3K（汚い・きつい・危険）と言われておりました。確かに他の全産業と比べて建設産業の労働時間は長かったり、週休 2 日制施行や年次有給休暇の取得状況、賃金水準にしても悪いという数字が出ています。それから危険に関しては、特に重篤災害が頻発するという事で、それらを業界あげて改善に取り組んでいこうと考えています。今、八重山は非常に仕事量が多いので、多い中からしっかり儲けを出して、体力をつけて、そして職場環境を良くして、従業員にたくさん給料をあげて、そして余裕をもって人材を雇用し、休暇もきちんとあげるという事で、ある業界では悪いイメージの 3K を逆にとって「給料が高い・休暇が取れる・かっこいい」の K を取って、新 3K という事でやっている業界もあります。それから女性や若者の雇用という事で、建設現場の見学会や小中高の学校に出かけて、建設業のやりがい話しする機会を多く作っています。例えば農林高校に行って、職業紹介として建設現場のモデルを作って、建設業の紹介をしています。

結びになりますが、建設産業団体はこれからも地域に根ざして、地域に育てられ、地域に必要とされる存在であるために頑張っていこうと思います。我々建産連も今年の新年会に新たな 3K を作りました。「感動・感謝・貢献」という言葉を使っています。つまり建設産業を通して世の中に役立つことをする。そして自分達もそれに感動するという、感動を生み、その事によって皆に感謝され、そして地域に貢献すると言う事で、八重山圏域の発展のために頑張っていきたいと思っております。



ビクターの白木氏と
パンナー交換